

今週（4月2日から4月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は370兆円台後半と高水準で推移する中、無担保コールO/N物は、積み期後半に入ったことや税揚げにより、主に地銀や信託銀行の調達調整が見られた。業態別では週を通して地銀業態で▲0.085～▲0.025%、証券業態で▲0.085～▲0.065%、信託業態で▲0.085～▲0.065%での出会いが見られた。加重平均レートは前週と比べてやや上昇した。ターム物は、週を通してショートターム物で▲0.05～▲0.03%の出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、5日に2W・8,000億円でオファーされ、結果は1,602億円（期落ち額2,152億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは年度末が明け、短国・長国の発行が週内に重なったことでレートは上昇したものの、▲0.10%近辺では投資家の資金運用ニーズが厚く入り、▲0.15～▲0.10%のレンジでの出会いとなった。

週初2日のT/Nは▲0.15～▲0.13%での出会い、S/Nは▲0.15～▲0.14%の出会い。翌3日には短国3ヶ月物の発行があったことからレートは大きく上昇することとなり、S/Nで▲0.115～▲0.105%の出会い。翌4日には短国・国債買入オペがオファーされたものの、レート水準は変わらず、S/Nで▲0.11%前後の出会い。その後は5日・6日と短国の入札が連続で行われたものの、ビッドサイドに厚く運用ニーズが見られたことで、レート水準は変わらず、▲0.13～▲0.11%程度の出合いに終始した。

SCIについては、こちらも年度末の影響が剥落し、レートは全体的に甘くなっていった。ビッドが目立った銘柄では5y 134～5y 135、10y 334～350、20y 164、30y 58などにビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は年度末の担保需要の剥落や、週3回の入札による需給悪化懸念から慎重姿勢が強まり、軟調な展開となった。4日の短国買入オペ後は水準感からの買いも見られ、週後半はレートの上昇地合いに一服感が見られた。

3日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.15～▲0.14%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1393%、按分落札利回▲0.1326%と前回債からレートが上昇する結果となった。セカンドリーでは、▲0.137～▲0.131%の出会いと足切り近辺で推移した。5日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.142～▲0.135%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1355%、按分落札利回▲0.1303%と概ね事前予想通りの結果となった。セカンドリーでは、▲0.144～▲0.14%の出会いと強含みで推移した。6日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.155～▲0.14%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1594%、按分落札利回▲0.1534%と強い結果となった。

一部で期待されていた短国買入オペは、4日に5,000億円でオファーされた。応札倍率は3倍台とやや多かったものの、売り急ぐ動きは見られず、平均落札利回較差▲0.003%、按分落札利回較差▲0.005%と小じっかりとした結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は3月末を越えたことで、有利子負債の削減で発行を控えていた一般事業法人からの発行再開の動きがみられた。週間償還総額約3,200億円に対し、週間発行総額は約6,500億円程度と発行超であった。一方で、発行の大部分が商社、鉄鋼、ノンバンクと銘柄に広がりは見られなかった。結果として、a-1格以上の発行レートは、先週に行われた年度末のCP等買入オペで積極的に落札したと思われるディーラーの買いが見られ、発行頻度の低い銘柄で▲0.015～▲0.005%、それ以外の銘柄では浅いマイナス～0%近辺での決着となった。

5日に2,500億円で実施されたCP等買入オペは、特定の銘柄が応札されたことや、前回オペ比で2,500億円の大幅な減額になったこともあって、平均落札レート0.002%、按分落札レート▲0.007%といずれも前回（平均▲0.029%・按分▲0.038%）から上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/2 (月)	21,388.58	0.040	106.32	△ 0.067	△ 0.140	3,784,700
4/3 (火)	21,292.29	0.020	105.89	△ 0.067	△ 0.110	3,781,100
4/4 (水)	21,319.55	0.025	106.51	△ 0.063	△ 0.100	3,790,000
4/5 (木)	21,645.42	0.035	106.94	△ 0.062	△ 0.109	3,758,700
4/6 (金)	21,567.52	0.035	107.17	△ 0.059	△ 0.119	3,779,900

来週（4月9日から4月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/9 (月)	2月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 3月の消費動向調査(内閣府 14:00) 3月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				
4/10 (火)		流動性供給 6,000億円 4/12発行	交付税借入 10,500億円 4/19借入		2月の米卸売売上高 3月の米生産者物価指数
4/11 (水)	2月の機械受注統計(内閣府 8:50) 3月の企業物価指数(日銀 8:50)				3月の米財政収支 3月の米消費者物価指数
4/12 (木)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 3月のマネーストック(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 4/16発行	30Y 7,000億円 4/16発行	エネルギー 対策借入 8,500億円 4/20借入	
4/13 (金)	2月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)				4月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/9 (月)	1,000	▲ 4,900	▲ 3,900	全店共通 ETF買入 国債補完	▲ 2,200 100	1,600 1,000	500	▲ 3,400	TB3M発行▲44000償還42000 流動性供給▲5000
4/10 (火)	1,000	▲ 4,000	▲ 3,000	国債買入 CP買入		6,300 2,500	8,800	5,800	TB6M発行▲23000償還17500
4/11 (水)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	
4/12 (木)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	源泉税揚げ 流動性供給▲6000 交付税借入▲10500期日10500
4/13 (金)	▲ 1,000	78,000	77,000				0	77,000	年金定時払い
週間合計	2,000	66,100	68,100	—	▲ 2,100	11,400	9,300	77,400	

4/9は日銀予想、4/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、今積み期の最終週となることで、調達サイドの調整から、一時的に強含む地合いとなることも予想される。資金需給は、9日に短国3M発行超過、流動性供給発行、10日に短国6M発行超過、12日に源泉税揚げ、13日に年金定時払いが予定されている。

レボ市場は、引き続きビッドサイドの運用ニーズは堅調になると見られ、レートは▲0.10%をやや下回る水準での引合いが中心になると思われる。

短国市場は、12日に3M物の入札が実施予定となっている。短国買入オペの動向も含め、レート水準が注目される。

CP市場は、15日にかかる発行があるため、活発な取引が期待される。また、12日にはCP等買入オペが2,500億円で実施予定となっている。

主要なイベントとしては、11日に3月の米国CPI等の発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。